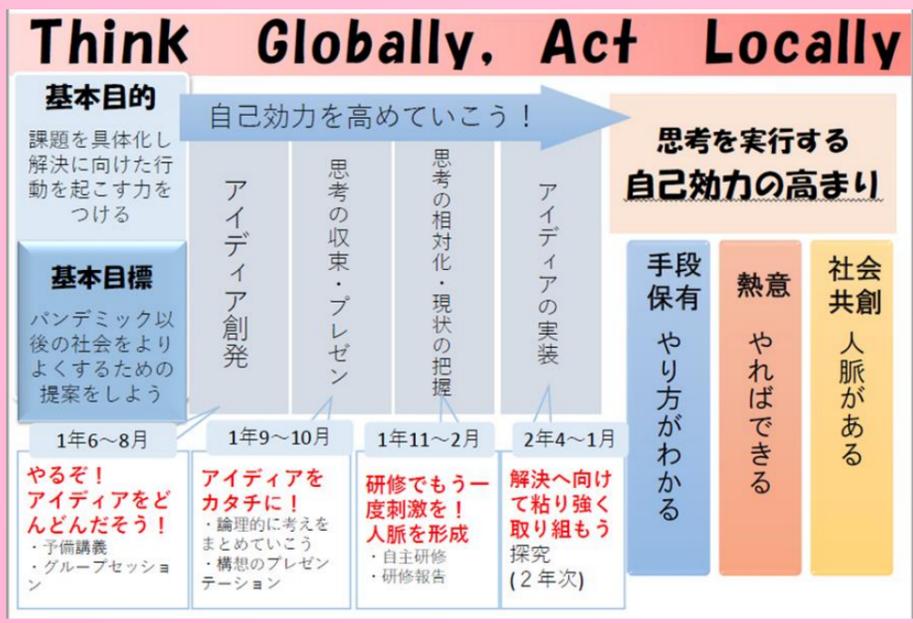


令和3年度科学技術人材育成重点枠

本校SSHは基礎枠に加え、令和2年度から令和3年度までの2年間、科学技術人材の育成に係わる取り組みを行う「SSH科学技術人材育成重点枠」の指定を受けています。本校では、『米沢興讓館サイエンス・ルネサンス 2.0～アントレプレナーシップを兼ね備えたサイエンス・イノベーター育成～』をテーマとし、地域の方々に協力いただきながら、地球規模の社会課題を自ら発見し、解決できるサイエンス・イノベーターの育成を進めていきます。
このテーマに基づき5つの大きな柱を設定しました。

(1) 地球規模の社会課題の具体的解決に向けて行動を起こす教育プログラムの開発

本校では、1年次・2年次の探究的な学びを学問系統別のコースに分かれて活動しています。昨年度からこのコースの中に、新たに「アントレプレナー」コースを設置し、地元の社会人との「社会との共創ワークショップ」を通して、地球規模の社会課題発見・解決に向けた課題研究を実施していきます。
※ アントレプレナー：本来は「起業家」を指す言葉ですが、本校では「解」のない世界に対峙できる資質・能力と捉えています。



昨年度『社会との共創ワークショップ』の様子

(2) TGALサミットの開催 (Think Globally, Act Locally)

「アントレプレナー」コースの生徒が取り組んできた課題について、地域の方々を巻き込みながら地球規模の社会課題を共有すると共に地域の解決が地球規模の社会課題解決とどう繋がるかTGALサミットを開催し議論します。

(3) 校内組織の構築と多様な外部連携

ユネスコスクールやOECD日本イノベーション教育ネットワーク実践校等、課題研究を進める中で今まで連携してこなかった多様な外部機関と積極的に関わりながら、より深い課題研究の活動に繋げていきます。

(4) 世界にはばたくイノベーター育成塾

本校及び全国から集まった他校の選抜生徒がカリフォルニア大学サンタバーバラ校教授中村修二氏を訪問、また、GoogleやAppleなど世界に冠するIT企業で研修する機会をつくります。未来のサイエンス・イノベーターにグローバル化が進展する中で重要なことは何かを感じ取る事ができる海外研修を計画しています。

(5) 評価法の開発

「グローバル・コンピテンス」調査等、新たな評価指標を開発し、生徒の多様な活動を評価していきます。

コロナ禍の影響で、出来る範囲での教育活動とはなりますが、今まで培ってきた地域との連携をさらに発展させながら、本校独自の活動を展開していきます。

